

重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。 ③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。	
現 状	①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っている。よって、教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善を進めることが求められており、生徒には家庭においても積極的に学習や探究活動に取り組ませることが必要である。 ③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。	
達成目標	①「主体的・対話的で深い学び」の授業に、タブレットなどのICT機器や教育用クラウドサービスを活用した教員の割合 ②家庭学習でタブレット及び教育用クラウドサービスを週3回程度利用した生徒の割合	③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 (1)簿記 (2)ビジネス文書 (3)ビジネス情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)会計実務
	① 80% ② 60%	10人以上（卒業年度）
方 策	・互見授業を行い、アクティブ・ラーニングの実践やタブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 ・生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。	
	・朝や放課後の補習授業を実施する。 ・商業関連部活動を充実させる。 ・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 ・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	・ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、自他の個人情報を安易に SNS に掲載したり、ネットルール・マナーを守らないことでトラブルが起きている。 ・ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年少なく、令和2度3名、令和3年度1名、令和4年度は0名だった。 ・スマホ等を平日3時間以上使用している生徒は約50%にもなる。特に SNS と動画はほとんどの生徒が利用し、ゲームは約70%である。また、夜12時以降にスマホ等を使用している生徒が約20%おり、スマホ使用に起因する問題点のトップである「学習に悪影響、睡眠不足」（14.2%）につながっている。 ・学校ネットルールづくり実行委員会が中心となり、生徒が自ら「学校ネットルール4箇条」を決めている。令和4年度は「NOスマホ時間（帰宅後2時間以上）を作ろう」のルールが遵守できない生徒が多いため、4箇条すべてを遵守している生徒は54.5%と低かった。 ・生活リズムの乱れ等不規則な生活習慣により不調を訴える生徒がいるため、基本的な生活習慣の確立ができるよう、心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要であると考ええる。
達成目標	①学校ネットルール4箇条を遵守できる生徒の割合 80%以上
	②生活習慣にかかわる広報活動を行う（各学期に1回以上）
方 策	・スマホ使用に関するアンケートで使用実態を把握し、イレブンセブン運動やネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控え、ネット依存にならないようにする。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、全体集会や授業、HR等で実際に起こっている事件や事故の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 ・保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持てもらう。 ・学校ネットルールについては、生徒1人1人が自分のスマホやネット利用のあり方を見つめ、自分の問題の解決に主体的に取り組めるよう支援するとともに、多様な生徒に対応したものにするため、全体ルール〔生徒みんなでこれを守ろう〕とマイルール〔自分はこれを絶対を守る〕の2階建て構成とする。 ・生徒が問題意識をもって主体的に活動できるよう、環境を整える。（ホワイトボードの活用等） ・生徒保健委員会で生活習慣について知りたいことを話し合い、調査・研究を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和５年度 石動高等学校アクションプラン ― ３ ―	
重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）
重点課題	進路意識の向上と生徒への進路支援の充実
現 状	・各々進路希望は持っているが、かなり漠然としたものであり、学年が進んでもなかなか明確な目標を見つけれない状況がある。具体的な目標を持っていないことが、学習や対策の遅れにも繋がっており、オープンキャンパスや見学会に参加することで、自分の進路を具体的に意識するきっかけになるのではないかと考えている。 ・進路選択が多様であり、生徒ひとりひとりに合った細かな進路支援が必要になっている。各生徒にとって十分なサポートが行われているかが大変重要であると考えている。
達成目標	①１・２年生：オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数（WEB 実施を含む） 年１回以上
	②３年：進路支援の満足度 ４段階評価による３以上が９０％以上
方 策	・オープンキャンパスや体験会などの情報を随時更新し、できるだけ生徒の目に触れるよう工夫する。 ・ＳＴやＨＲを利用しオープンキャンパスや見学会などの情報を担任から伝えてもらうとともに、進路に応じて参加の声掛けを行う。 ・休業中の課題にするなどして、学年全体で参加する雰囲気作りを行う。 ・３年生全員の進路支援をサポートするために、学年の担当者だけでなく、学校全体で生徒の進路を支えていくことのできる体制を構築する。

（評価基準 Ａ：達成した Ｂ：ほぼ達成した Ｃ：現状維持 Ｄ：現状より悪くなった）

令和５年度 石動高等学校アクションプラン ― ４ ―	
重点項目	特別活動への取り組みを通して主体性や積極性を育成する。
重点課題	特別活動へ主体的に参加し積極的に関与できるよう活動内容を工夫する。
現 状	・体育大会や文化部発表会をはじめとする特別活動では、生徒達が意欲的に取り組む様子が見られ、集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに自主性や連帯意識を育んでいる。 ・本校部活動数は運動部１３、文化部１０あり、部活動加入率は運動部約５７％、文化部約３２％、全体で約８９％と、多くの生徒が部活動に参加している。
達成目標	①学校行事（体育大会、球技大会）に対する充実度 ５段階評価による４以上が７０％以上
	②部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 ５段階評価による４以上が７０％以上
方 策	・生徒会活動や学校行事への生徒参画の機会を増やすとともに、生徒の社会性や指導力の向上を図れるよう運営や内容を改善し、多くの生徒が充実感を持って活動できる機会を設ける。 ・部活動登録後、全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報共有しながら、個人や集団の実態に応じた目標を持たせ、活動を行う。 ・学校行事や高体連、高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。

（評価基準 Ａ：達成した Ｂ：ほぼ達成した Ｃ：現状維持 Ｄ：現状より悪くなった）